

令和7年度 神奈川県立横浜ひなたやま支援学校 第3回学校運営協議会 開催報告

本校の学校運営協議会を次の通り開催しました。

審議会等名称	神奈川県立横浜ひなたやま支援学校 第3回学校運営協議会		
開催日時	令和8年2月24日(火) 9時30分～11時40分		
開催場所	横浜ひなたやま支援学校 会議室		
出席者	学校運営協議会委員8名 学校事務局8名 (2名欠席)		
問合せ先	横浜ひなたやま支援学校 副校長 岩田 みゆき 電話 045-300-5611		
掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
審議・会議経過			
<p><開会></p> <p>1 学校運営協議会</p> <p>(1) 会長挨拶</p> <p>VUCAの時代、どう生きていくか。知的障害があっても堂々と一生懸命生きてほしい。そのための力をこの3年間でどうつけていくかをみんな考えている。</p> <p>(2) 副会長挨拶</p> <p>3年生は卒業を迎える。1、2年生は修了式。今年度ももうすぐ終わる。早いと感じる。本校は13年目を迎える。より本校のカラーを打ち出していく必要があるかと考える。共生社会の中で本校がどうあるべきか、常々考える。この協議会で意見をいただきたい。</p> <p>2 学校評価部会(司会 会長)</p> <p>(1) 高等部1年生徒発表「進路校外学習について」</p> <p><u>生徒</u> 報連相が大切。集中力をつけたい。病院に見学に行った。運動をがんばる。作業で仕事を丁寧に行う。体力が大事。挨拶と体調管理が大事。企業に見学に行った。仕事は簡単ではない。オアシスをがんばる。声を大きく、がんばる。校外学習では進路についていろいろなことがわかった。</p> <p>(2) 令和7年度学校評価(校内評価)について(各グループリーダーより説明)</p> <p>視点1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科会について、テーマにより、学年ごとにステップアップしていくもの、繰り返し学習場面を設定するとよいものがあるということが見えてきた。今後、学習内容を扱う時期、教材等のアイデアを各学年の年間指導に盛り込んでいきたい。 ・ICT活用について、ノートパソコン使用におけるルールやマナーを守り、コメント入力や作品制作を行うことができた。今後、生徒が安全かつ主体的にICT機器を活用した学習経験を積めるよう、教員向けの知識と技能の向上を目指した研修を重ねていく。 <p>視点2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントによる評価を活用し、実態に応じた学習教材や支援方法の検討と実践について校内研究に取り組んだ。今後活用していく。 ・命の安全教育の推進について、2年犯罪防止教室等、事故未然防止に繋がる学習を行った。 ・学校保健計画に基づき生徒や保護者に丁寧に寄り添うように努めた。学校で生徒が薬を飲む機会が増えてきているため、薬品の取り扱いについて検討した。卒業後、自分で服薬管理できる力をつける必要もある。学校保健健康診断要項の作成、調理計画書の見直し等、生徒が安心して学べる環境づくりに努めている。 ・避難訓練について、危険を回避する方法などを学び、家庭でも活かせるようにすることを目標とした。連絡帳で訓練の様子を保護者に伝えたことで、家庭での防災活動を見直していただくきっかけとすることができた。 			

視点3

- ・進路指導内容一覧や3年間の学習内容表をもとに各学年の年間指導計画を作成し、実践した。進路校外学習について反省をもとに検討し、生徒の実態に合った見学先の検討を行った。

視点4

- ・地域等との協働について、ガバオ祭りでの参加範囲拡大、パンの外部販売回数増など地域との結びつきを活かした活動を継続できた。丁寧な事前事後学習も実施し、自分たちが行った活動を改めて実感することに結びついた。
- ・校内の相談について支援方法やアセスメントの提案を行った。校内ケース会においてはシートを活用し、内容の整理や効率化を図った。今後、コーディネーターも専門職と捉え人材育成についても考えていきたい。
- ・地域の方と連携した防災教育について、地域の方に協力していただき避難所体験を行った。夏には地域防災拠点を含む4団体による共催で公開講座を実施し、周辺地域の地形から起こりうる災害について地域の方と共通理解することができた。
- ・ホームページについて、一般向けのニーズ調査（アンケート）を実施した。約8割の方から肯定的な評価を得ることができた。今後、要望のある「進路」「作業ユニット」等の情報を多く掲載していく。

視点5

- ・人権研修について、受講、協議方法の工夫し理解促進を図った。不祥事防止については毎月の点検、研修、会議と臨時の研修を実施した。引き続き人権意識を磨く取組みをしていく。
- ・教員の健康管理について、今後も業務の効率化、環境整備について、時間外勤務の情報共有をし、意識向上を促していく。
- ・カリキュラム・マネジメントについて、業務の効率化に関する提案と実践を進め、ICTを活用した事例を収集し活用推進を図っている。

(3) 質疑応答

委員 会社に見学に来ていただき、熱心に聞いていただいた。生徒の実態に合わせて見学先を検討することは大事だが、どのように実態に合ったと判断するのか。来年度の計画、見学先を決めるにあたり、生徒の実態に合わせてニーズも考えながら検討していくとよいのではないか。

委員 文章表記のみの学校評価報告としているが、達成状況の評価としてSABC評価のようなものがあると評価しやすい。

委員 インスタを活用している学校もある。見る方はそういう形も気軽に見ることができる。進路選択においては保護者主体。事業所の提案等、もう少し情報提供してほしい。卒業生が行った事業所等、紹介してもらえると参考になる。

委員 学校が目指す方向へ、現場が理解して実態に合わせて必要な学習、情報が提供できるか。保護者は親には見えない子どもの分析を教員にしてほしい。また、強み、弱みも踏まえて様々な提案をしてほしいと思っている。ヒントや手立てを保護者と共有し、必要な支援を行っていくことがよい。必要以上の支援は子どもの成長に結びつかない。

委員 自治会は感謝している。夏季公開講座で申し込み方法は紙ベースで行った。時代もあるが、基本的な方法を選択できることも残していったらよいと思う。

(4) 学校評価アンケート結果の報告

単年度評価。昨年度の違いを文面にしている。生徒と保護者の評価を大事にしている。

視点1 学習指導に概ね80%以上の評価をいただいている。しかし「安心して登校」を「あまり思わない」と答えている生徒がいる事については、支援の方法を探る。アンケートの意味も生徒に伝えながら行うように職員会議でも周知した。生徒はノートパソコンを使った授業はとて好評であった。

視点2 視覚支援教材での指差しなども含めた生徒からの相談が定着してきた。一方で、自分が困っていることを相談することが難しい生徒もいる。先程もあったように生徒の見立てができるようにしていきたい。個別教育計画は保護者から高い評価を得ている。いのちの授業等

の聞き取りは、「わからない」と回答した保護者が昨年度より減り、評価をいただいている。

視点3 保護者、教職員ともに90%の評価、概ね充実していた。

視点4 以前はわかりにくかったというところであったが、発信の効果が表れてきた。「よこひな日記」HPも概ね高い評価をいただいた。紙での配付や回覧版も併せて取り組む。授業参観での保護者の感想では、「チャレンジの時間で楽しいことや楽しい時間を見つけしてほしい」、「校内実習では、社会人としての姿を見られてよかった」「子どもに仕事の認識がどこまであるのかわからなかったが頑張っている姿をみられてよかった」などあった。

視点5 概ね保護者からは丁寧な指導をしていると評価していただいた。希望があれば、普段の日でも参観できることを周知していけるとよい。

委員 今年度、保護者の「わからない」の回答が昨年度より低く、少なくとも学校の評価高まっている。難しいかもしれないが、生徒と教員の評価が合うのがいいといいなと思う。分析していただけるとよい。「わかりやすい授業」や「ICT」授業の件で、教員の評価が下がっている。厳しいのか、自己肯定感低いのか。生徒の評価を受けて、自分たちの評価をつけるとよいのではないか。自己評価の中で厳しくつけているのか。また、この数字の変化について学校としてどう捉えるのか。少しの変化をよいと思うか、そこに足りないものがあると思って取り組むのか。全部はできないので、次年度どうするか決めていく材料にしていくとよい。同じ問題で経年変化を見ていくのが大事ではないか。

副校長 アプリなど自信を持って使えると答えられなかったことや管理職が教員の実践をすぐに評価してアピールすることが足りなかったという反省がある。

会長 いくつか分析できるところはやって、先生方にフィードバックをしてほしい。

(5) 不祥事ゼロプログラム（最終検証）の報告

3 切れ目ない支援部会

○共生社会の実現に向けた取組みの報告「地域との連携」

切れ目ない支援部会は、神奈川県の特設支援学校すべての学校運営協議会の中で設置することになっている。地域の子どもたちを地域の皆さまとともに育てることを目標にし、協議、活動する部会となっている。

○防災教育

夏季公開講座共同開催。2年生2学期に避難所体験に実施。地域の方に助言をいただいた。

○作業

- ・フードサービスユニットは地域向けパン販売やNPO法人中央支援会のご協力でお菓子やパン販売を実施。
- ・グリーンサービスユニットは近隣の農園で草むしりや収穫・剪定の手伝いをした。農園の他にも近隣の御家庭の草むしりや剪定を新規開拓として行った。作業中にご縁があり、ハマロード・サポーターに登録することができた。瀬谷区土木事務所に登録し主に2年生、3年生がボランティア活動として清掃着等を借りて身近な道路の清掃活動を実施した。たくさんのゴミが集められた。そのことで生徒が感謝されたり、ビフォー・アフターで成果を実感したりした。自分の生活の中でも取り入れてもらうよう取り組みになって欲しい。

○自治会

- ・よこひな祭ではコーヒーを提供していただいた。その売り上げをまなびや基金へ寄付していただいた。冬季防災訓練では、寒い中、電気、暖房をつけずに地域の方が体育館に集まって、炊き出しなど様々な体験を行った。

○バリアフリーフェスタ

- ・神奈川県の事業の一環で、そごう横浜店9階の会場で、一つのブースを瀬谷支援学校と本校が担当してポッチャ体験コーナーを担当した。

○瀬谷さくら小学校

- ・下原公園に来た時に本校のトイレを利用。安心できる環境の取り組み。
- ・本校の生徒が瀬谷さくら小学校に行き、資材を取りに行くなどの交流ができた。

- ・高学年生がパン袋の資材を持ってきてくれ、オフィスサービスユニットのパン袋づくりを見学。
- ・本校パン販売時に来校し購入してくれた。後日メッセージボードを贈ってくれた。

○センター的機能

- ・瀬谷さくら小学校職員が来校し本校の校長が講師となり支援教育についてお話をする機会を設けた。コーディネーターだけでなく、学校のセンター的機能として地域とつながればと思う。
- ・地域機関との連携、会議に参加している。

委員 自治会に7月26日にひなたやま夏祭りを追記。令和8年は7月25日に実施予定。

4 地域防災部会

○今年度の学校の取組みと地域の取組みの報告

- ・委員長が中心になって進めていただいた。
- ・チーフ会議の中で避難者情報についての話題が出た。横浜市の場合は避難者情報は区役所の方が来て情報登録されると聞いている。災害伝言ダイヤルの他活用できる手立てとして、会議で紹介された Google Person Finder の機能について職員会議で紹介をした。

委員

- ・1月13日（火）夜に冬季防災訓練を実施。寒さと暗さの中で体験。手回しランタンで明るさを確保。炊き出し等、訓練を実施した。
- ・2月17日（火）運営会議があり、今年度の反省会をした。本校は県立学校に横浜市の防災拠点として設置されている。いろいろな面で不都合もあるかもしれないが、協力していただきながら来年もお願いしたい。

<閉会>

会長

私事ですが、長らく横浜ひなたやま支援学校の学校運営協議会に参加してきましたが、今期で終わりにします。ありがとうございました。横浜ひなたやま支援学校は横浜市の小学校の土地と建物を県立の学校にするという非常にユニークな経緯がありました。今まで学校を作る時は県の教育委員会の担当者が作り、校長に繋ぐ形式でしたが、現役の校長たちが見に来て検討しながら必要なものなど具体的に要望するようなかたちで作ることができた最初の学校になりました。横浜ひなたやま支援学校はコミュニケーションを大事にするということで自己実現を学校の表看板としてそれに向かってどういう手立てがあるのか考えてきました。いろんな方のアドバイスを受けて、様々なコミュニケーション、対話的な学びに向けて取り組んできました。生徒像が違ってきていて、今までの取り組みが全て通じるとは思っていませんが、最初の頃の自己実現の想いやテーマは捨てないで良い教育を進めていってほしいと思います。ありがとうございました。

校長

短い時間でしたが、内容の濃い協議会になりました。ありがとうございました。会長は第2回のコミスクから参加していただきました。数年ごとに校長が変わるために学校の特色について御意見をいただけるのがこの学校運営協議会です。この学校の立ち位置でこういう評価をされていることを、学校の中だけだとわからないことが多いのでありがたいです。前の学校の例ですが、放課後に小学生が事務室に「家に入れたい。鍵を落としたい。」と言ってきました。その後連絡を取り次いで無事に家に帰りました。学校に相談してくれたのは、清掃でその小学校に行っているからなのかなと思いました。特別な事をしなくても、なにげない挨拶、気軽な関係でわれわれも常に地域にある学校を意識しながら時代にあった学校づくりをしていきたいと思っています。年度3回の中で貴重なご意見ありがとうございました。

以上